

令和元年度 第1回「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議議事録

【日 時】令和元年9月4日（水）15時～16時06分

【場 所】皇學館大学 9号館1階 小会議室

【出席者】（伊勢市）辻情報戦略局参事・企画調整課長（志摩市）北山総合政策課課長補佐（玉城町）里中地域づくり推進室長（度会町）山下まちづくり推進課長（大紀町）田中企画調整課長（明和町）奥田防災企画課長（三十三総研）別府調査部長
（大学）齋藤教授、筒井教授、笠原教授、板井准教授、近藤准教授、池山准教授、森企画部長、中井教務担当課長

*欠席 （鳥羽市）高浪企画財政課副参事（南伊勢町）小嶋まちづくり推進課長（大学）千田教授

1. 開催にあたって

（1）ご挨拶

各委員からの自己紹介の後、資料「伊勢志摩共生学パンフレット」および「CLL 活動パンフレット」を基に伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラムの枠組みについて齋藤教授より説明がなされた。

（2）「伊勢志摩定住自立圏共生学運営会議」規程

資料②を基に齋藤教授より説明がなされた。

- ・本教育プログラムの組み立て方等についてのご意見をいただく場として、運営会議を開催させていただいている。
- ・補助事業期間中は最大年6回開催させていただいていたが、今後は年2回程度、事業の初めおよび事業振り返りの時期に開催したいと考えおり、これまでと同様にお力添えの程お願いしたい。

2. 議題

（1）令和元年度事業計画について

資料③を基に齋藤教授より説明がなされた。

- 科目Ⅰ：伊勢志摩圏域の定住資源と将来像
- 科目Ⅱ：伊勢志摩圏域の経済・産業と将来像
- 科目Ⅲ：産業基本論
- 科目Ⅳ：6次産業化実践論

- ・科目Ⅰ、Ⅱではゲストスピーカーで自治体様からのご協力を頂戴したい。
- ・科目Ⅲ、Ⅳは三十三総研様にご担当いただく。

6次産業化の実態を学んだ後、産業基本論を学ぶ形にしているため、春学期に科目Ⅳ、秋学期に科目Ⅲを開講してきた。かねてより順次性の点で文科省からも指摘を受けてきたことから、新カリキュラムでは6次産業化実践論を科目Ⅲに、産業基本論を科目Ⅳに内容を置き換えて配置している。

●伊勢志摩共生学（全学必修）

- ・基本的に本学専任教員がそれぞれの専門分野について授業を展開していくが、1回は伊勢市長様にご担当いただく。

●伊勢志摩共生学実習 A、B

- ・春学期は5つのコースを開講。秋学期も5つのコースを開講予定。そのうち、「三重大練習船での体験航海（漁労実習）」では、単位互換の仕組みで単位修得する形としている。

●課外活動 CLL 活動

- ・令和元年度は 25 活動（9月4日現在）
- ・CLL の活動の相談・申込があれば、地域課題学修支援室もしくは地域連携推進室へご連絡をお願いしたい。
- ・アクティブラーニングの形で地域へ出向き、地域の課題解決について考える。授業では架空のテーマが設定され、その架空のテーマについて考えていくことが多い。本学の場合は実際の現実の課題が目の前にあるということなので、学生たちも真剣に取り組まなくてはならないという状況を作っ
ていただいております、非常に大きな力がついていると考える。

審議の結果、異議なく了承された。

(2) 令和元年度 CLL 活動について

資料④を基に齋藤教授より説明がなされた。

① 新規

各担当教員から活動内容について説明

●だんだんお花畑プロジェクト in 玉城町

- ・実施主体は清し有田佐田沖環境保全会で、農村の地域環境保全活動をされている団体。里山周辺に点在する耕作放棄段々畑を活用した秋播き春咲き花のガーデニングコンテスト(8月31日締切で、応募は10団体ほど)の企画・運営に学生が関わっていく。

●宿田曾おかえりみこしプロジェクト

- ・南伊勢町宿田曾地区から離れた人たちに祭り当日、地区へ戻ってきてもらい、「子供みこし」を復活させるプロジェクトで、関係人口にフォーカスした活動。学生はまち歩きを通して絵葉書を作成したり、祭り当日の運営をサポートする。

●The Histories of Ise 行政文化資源の活用

- ・合併前に編纂された伊勢市史の市民への利活用が進んでいないことから、広く市民に知ってもらうための方法を学生とともに考える活動。

●ぱりっこ会議から市政への提言PJ

- ・名張市での活動。これまで伊勢志摩圏域に限ってきた CLL の活動範囲を広げた事例。

② 活動数、参加学生（学校行事参加者数）

- ・延べ人数：204名、実人数159名
- ・今年度は、1年生の参加者が多いことが特筆すべき点。

③ 令和元年度 CLL 活動報告会

- ・令和2年3月5日（木）13：30～16：00開催を予定。報告会終了後、第2回運営会議を予定

- おかげさまで、高等教育コンソーシアム三重の他大学からもこの CLL 活動について高い評価をいただいている。現在、三重大学が中心となって県内すべての高等教育機関で取り組んでいる COC+の中で、ファンタジスタクラブという CLL と同様の活動している組織があるが、その学生たちからも本学の CLL 活動の仕組みがうまく回り、学生もしっかりと取り組んでいるという感想をもらった。同年代の学生たちから見ても CLL 活動は充実したものだという評価を得ているところである。

【質疑応答】

(問) CLL 活動に参加している学生の伊勢志摩圏域出身者の割合はどのくらいか。

→H30 年度のアンケート結果より。圏域外 60%、伊勢市 30%。この 30%には下宿生が含まれているが、これを含めて圏域出身者の割合は 39%となっている。

(問) 各 CLL 活動立ち上げのきっかけはどのようなものか。

→課題を持ち込んでいただいているのがほとんどである、CLL 活動の立てつけとしては、課題と一緒に考えてくださる実施主体がいて、実施主体と学生と一緒に活動していくという捉え方。本当は、学生自身が課題を見つけ、その課題を自治体等に提案、取組へとつなげるのが理想的な形であるが、まだそこまでは到達できていない状況。

(池山准教授補足)

「広報いせ」特集記事制作プロジェクトは、学生発起の活動。

(問) 今年度、民間団体が関わっている活動にはどのようなものがあるか。

→「伊勢シーパラダイス体験アクティビティ開発プロジェクト」の実施主体が伊勢夫婦岩パラダイス様、「新聞カフェ」の実施主体が中日新聞伊勢支局様などである。さらに増やして行ければ、より充実したものになると考える。

(問) 活動が活発になると、その負担（予算）も大きくなるのではないか。

→大学の経費としては、教員の引率旅費程度の範囲で進めている。

(板井准教授補足)

「伊勢おもてなしヘルパー」では、研修を受けた CLL 参加学生が、実際に神宮参拝有償ボランティアを行い、些少ではあるが報酬を得たという事例も生まれてきている。

(池山准教授補足)

「TMKミライデザインプロジェクト」は、受託研究と並走する形をとっている。

(問) 学生の活動場所への移動手段はどうしているか。

→それぞれの自治体に送迎いただく場合もあれば、担当教員がレンタカーで引率する場合もある。

→学生には基本的に自家用車による移動はしないよう指導している。

審議の結果、異議なく了承された。

(3) その他

特になし

3. 報告

(1) 令和元年度伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム開講状況（履修者数／社会人履修生）等について

資料⑤を基に齋藤教授より説明がなされた。

- ・プロジェクト研究ⅠⅡの履修者数目標を70名以上としているので、まだ少し足りない状況。
- ・アクティブシチズンとしての活動ができる人材を1学年700名のうち、1割程度（70名）養成したいと考えている。その数に今後できるだけ近づけていきたい。

(2) CLL 活動関係

①平成30年度 CLL 活動時間報告

- ・延べ報告者数：128名、延べ報告時間数：3608.3時間

②オープンキャンパス「CLL 活動パネル展示、活動発表」

- ・オープンキャンパス自体の参加者数も今年度は、1000名を超えた。この方々にもアピールできたと考えている。

（池山准教授補足）

「伊勢シーパラダイス体験アクティビティ開発プロジェクト」では、現在バスボム作り体験プログラムを販売する商品開発を伊勢シーパラダイス様と取組ませていただいている。その体験プログラム内容のブラッシュアップを目的として、8月8日のオープンキャンパス来場者15名ほどにモニターとして体験していただいた。

(3) 文部科学省統一指標フォローアップアンケート結果について

資料⑥を基に齋藤教授より説明がなされた。

- ・補助事業期間中、実施が義務付けられたアンケートで、今年度が最終回。

- ・学生アンケート

〈問4〉 「はい」70%。7割の学生が地域課題解決に役立つ知識・理解・能力が付いたと自己評価している。

〈問11〉 「参加してみたい」＋「内容によっては参加してみたい」36%＜「まだわからない」43%
まだまだ魅力の発信が必要かと考える。

- ・教員アンケート

〈問2〉 「教育・研究ともに参加」42%で、過半数に到達していない結果となった。

- ・職員アンケート

〈問1〉 「知っている」98%にとどまってしまった。

- ・自治体の代表者アンケート

〈問3〉 「大いに満足」75%、「満足」25%。概ね満足していただいているという回答をいただいた。理由欄も非常に好意的に記述いただき、感謝しているところである。

異議なく了解された。

(4) その他

特になし

*全体を通して

- これまでの運営会議では補助事業ということで、地域連携に関して、事業に関わりのある内容に資料が限られていたが、次回からは他の全体的な事柄に関して数値だけでもお示ししたい。
- 玉城町広報紙 4 コマ漫画掲載について。 (池山准教授)
広報紙を若い人たちに読んでもらうことを目的に、本学漫画研究会が玉城町広報紙に 4 コマ漫画を掲載する企画が 10 月発行分を目指し、進行中である。
- CLL「広報いせ特集記事制作プロジェクト」について。 (池山准教授)
8 市町の広報担当者と連携し、学生とともに企画した共通記事が、8 市町すべての 12 月発行分広報紙に掲載される予定。今後取材に出かける予定である。
- 本日配布のクッキーについて。 (近藤准教授)
共生学実習「伊勢志摩日本酒・酒粕スイーツ開発」で、「明和町日本酒プロジェクト」でできた酒粕の有効活用として製作したもの。今年はおおさと酒粕を練りこんだクッキーで、使用している酒粕は、神都の祈り限定。ご試食いただき、イベント等での出店依頼などあればぜひお願いしたい。

以上

*次回日程

次回(令和元年度 第2回)運営会議は、

令和2年3月5日(木)16時～ 皇學館大学 9号館 1F(911)にて開催されることが確認された。